ちいさな証

祈りをお聴き下さった神様

マルティン祐子
スイス日本語福音キリスト教会

「わたしたちの内に働く御力によって、わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることのおできになる方に、教会により、また、キリスト・イエスによって、栄光が世々限りなくありますように、アーメン。（エフェソの信徒への手紙 3章 20、21節）

私がスイスに来てから早くも2年が経ちました。2011年3月末、東日本大震災の10日後にバーゼルに到着しました。当初は日本中が悲しみに包まれ、大混乱しているさ中で、私は「こんな状況の中、すでに決まっている結婚準備のためとはいえ、私だけスイスに行ってもいいのだろうか。」と困惑していましたが、たくさんの方々に暖かく迎えられ、新しい生活を始めました。

しかし、とても祝福された結婚式や、楽しかった両親のスイス訪問、ギリシャでの新婚旅行などが終わり、忙しさからひと段落した頃、突然寂しさと沢山の疑問に襲われました。どうして神様は私をスイスに連れてこられたのか、私がスイスにいる意味は何なのか、そして何よりも、夫に頼りっぱなしのこの外国の地で、どうやって神様のご用のために働けるのか、と考えていました。そして、神様にいただいたせっかくの時間を無駄にしているのではないか、と落ち込みました。

2012年1月、私は必死に神様にお祈りしました。「神様、私の今いるこの場所で、私を私らしく用いてください。私にできることを教えてください。」とお願いしたのです。神様は私の祈りを聞いてくださり、すぐに、次々と道を開いてくださいました。神様は、同じ月に、教会の讃美チームでバイオリンを弾く機会、バーゼル在住の日本人のための家庭集会を導く機会、そして子どもたちの給食奉仕に参加する機会を与えてくださいました。

小さい時は練習が大嫌いだったバイオリンが、今は神様の御名を讃美するために用いられているとは、奇跡のようです。そして夫婦で一緒に礼拝で演奏できるというのも、大きな喜びです。

給食奉仕の場では、両親が働いていて、家でお昼ご飯を食べることができない幼稚園児や小学生たちと一緒にご飯を食べ、遊びます。時間帯も、仕事内容も、一緒に働く人たちも理想的で、本当に神様が導いてくださったと確信しています。スイスのやんちゃな子どもたち相手で、大変なこともありますが、神様に頼ること、神様の愛の大きさを毎回学んでいます。

家庭集会をリードするというのは初めての経験でしたが、私のスイスでの生活にとって欠かせない、貴重な時間となりました。ウェンディさんが、毎回一緒にスカイプで準備してくださり、感謝しています。人数は少ないですが、神様の言葉をゆっくりと皆で味わうことができ、毎回聖書から新しい発見、励まし、慰め、希望をいただき、本当に恵みに満ちた会です。バーゼルの小さな我が家が、信仰の交わりのために用いられ、神様の言葉と、私たちの讃美と祈りに満ちているとは、何と言う幸せでしょうか。

この2年間、神様がいつも、必要な時に必要な助けを与えてくださいました。私と神様は2年前よりも親しい関係になりました。そして、これからの2年間、私たち夫婦は国際宣教団体OMの日本支部で奉仕しますが、今までのように、困難やチャレンジと共に沢山の恵みや祝福も用意していてくださる、と信じています。

（私たちのニュースレターをご希望の方は yulipp@phox.ch にご連絡ください。）